

事業所名

edu care ぶらす

支援プログラム（参考様式）

作成日

R8

年

2

月

1

日

法人（事業所）理念		しぜんに生きる、こどもの居場所 ～インクルーシブな環境の中で、みんなで生活し、共に育ち合いながら学び合う～										
支援方針		・インクルーシブな環境の中で定型発達の子と一緒に生活し、共に育ち合う中で支援を行います。 ・集団で生活する中での「困り感」をよりリアルタイムでとらえ、切り替えの難しさ、理解のしにくさ、お友達との関わり、喫食時のサポート等を行います。 ・日々の「できた」を増やして子ども自身の成功体験を積み重ね、子どもの成長をサポートします。 ・保護者、他事業所との連携を密に行いながらも子どもの理解を深め、就学前の集団生活をより生活に根差した環境でサポートします。										
営業時間		8	時	30	分から	17	時	30	分まで	送迎実施の有無	あり	なし
		支 援 内 容										
本人支援	健康・生活	・自立した生活ができるようになるための土台として、集団の中で生活する中で必要な着替え、片付け、午睡、排泄支援などを心身の状況に応じて行います。また、ピュッフエスタイルの給食の時間をプログラムに組み込むことで、並ぶ・自分で取る動作を始め、専門職と一緒に食事の場面で喫食・嚥下サポートを行います。 ・他機関と保護者との連携を密にとり、利用者の生活状況、発達を把握し必要な生活支援を療育内容に取り入れていきます。										
	運動・感覚	・感覚統合理論などに基づいて、感覚の調整や行為に必要な機能の獲得をサポートします。日常の中での活動を観察し、ひとりひとりに必要な力を育むための支援を行います。 ・自然ゆたかな園庭の中で、土・水・火・草など自然なものとのふれあいます。築山や砂場、虫も沢山いる園庭で思いっきり走り回れる環境を整備しています。 ・リズムを行い、ピアノの音に合わせて楽しみながら身体を動かすプログラムを行います。										
	認知・行動	・集団生活の中で必要なコミュニケーションスキルを中心に、物事や他者への理解、他者の視点も理解し、状況判断できる力を身につけられるようサポートを行います。 ・年齢に応じた玩具を豊富に準備し、自分で考え、自分で選ぶ環境を用意し、数を数える、文字に興味を持つなどの興味関心を日常の中で引き出します。										
	言語 コミュニケーション	・定期発達の子と一緒に生活する中で、子供が自分の考えや気持ちを他者に伝えられるよう、大人が子どもの気持ちを聞き取りしたり代弁しながらサポートします。物の貸し借りや順番、勝敗の受け入れなど、社会生活を行う上で必要なソーシャルコミュニケーションスキルを生活の中というリアルタイムで支援します。										
	人間関係 社会性	・みんなで対話をする「サークルタイム」の時間の中で、人が話すのを待つ、理解する、自分の意見を言う、意見がこともあれば通らないこともあるといったソーシャルコミュニケーションスキルを学びます。										
家族支援		・事業所の中の活動だけではなく、ご家庭での様子を保護者の方より細かく聞きながら、事業所で日々の支援を行います。また、年齢や発達段階を把握し日々のフィードバックを行い、家庭で実践できるようサポートしていきます。						移行支援		・就学にあたり不安な点を明確にした上で、小学校への円滑な移行を支援し、子どもたちが自信をもって新たな環境に適応できるよう支援を行います。 ・就学前に集団生活の中での「困り感」をリアルタイムで支援します。		
地域支援・地域連携		・隣接の子育て支援センター（同法人）や協力機関と連携を図り、未就学や発達特性のあるお子様の早期発見に繋げていきます。 ・教育委員会と連携し、就学前相談会を実施。就学前のサポートを行います。						職員の質の向上		・職員の質の向上のため、事業所内部研修をはじめ、運営本体の学校法人内での事業所間で連携した法人内研修、外部（県外を含む）研修へお派遣や公認心理士等の外部講師による研修・児発OJT研修などを行います。		
主な行事等		・園の行事と一緒に参加できます。運動の会など大きな行事は除き、遠足や散歩、探求学習に伴う園外保育、さかな会、もちつき大会等参加できる行事があります。 ・職員とお子さんでの活動に、保護者の方に参加してもらったり、保護者の方に適切な関わり方を伝える”ペアレントトレーニング”を行事として計画しています。										